

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 地域密着は理念には入っていないが常に意識はしている。理念の具体化がされていない。共有はしきれていないが努力している。理念の見直しをした方が良いという意見があるが、できていない。 | グループホームほけっとの理念は職員で作成した。職員会には、日々の実践を通じて、管理者及び職員は、地域密着サービスの意義や役割について共有し、意識づけするための話し合う機会が少なくなっている。 | 「地域」という言葉が理念の中に謳われているかどうかは問わない。日々のサービス提供場面を職員間で振り返り、全職員が理念を共有し日々の実践の中で具現化されることを期待する |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。 | グループホームがあまり知られていないと思う。コロナの影響もあり地域の活動にも参加できていない。なるべく地域の行事等に参加している。中学生の福祉体験や短大実習生も受け入れている。なすなカフェへの参加も行っている。 | 道路の草刈り・水路清掃作業等に事業所が参加している。利用者は、なすなカフェ(認知症サロン)に参加したり、事業所のお便りを自治会に回覧させてもらうなど、利用者の地域生活・事業所と地域の交流などに努めている | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 短大生や実習生を受け入れることにより再度認知症の理解を深めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。 | コロナ前は2か月に一回会議を行っていたが今は行っていない。報告を聞くだけになっている。ヒヤリハットへの意見には、重きを置いている。 | コロナ禍の中、開催ができなかった。しかし現在の事業所の状況をお知らせするなど、会議のメンバーとの繋がりを大切にする事の必要性は理解している。 | 会議が開催できない状況だが、各委員に2ヶ月に1回は、事業所の状況を知らせ、意見をもらうなどの工夫が求められる。これらの取り組みを通じて、委員との繋がりを継続し、運営に反映することを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | あまりできていない。 | 村の福祉に関する懇話会等に参加し、地域の実態の把握に努めている。防災対策に関することでは、村の担当課との連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 玄関は夜間、施錠する以外は開いている。やむを得ずホールのサッシの施錠をする事がある。虐待防止の研修を行っている。理解しているし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 管理者としての方針を明確にしており、職員会等にて日々のケアを振り返り、利用者に対して威圧感を与えていないか話し合っている。「不適切なケアの予防・改善のための具体策」等の事例検討を行い、気づきを持つための学習を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 研修をし、防止に努めている。自分で気が付かないところでおきている様に思う。どこまで虐待になるのか疑問に思う時がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 成年後見制度について学ぶ機会もあり、以前活用されている方もいた。制度について理解できていないが、これから学んでいきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約内容を把握しきれていない。時代にあった改正をすべきと感じる。管理者が代表で行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | ご家族が面会にみえた時に様子を聞かれる事がある。担当者会で意見などを聞いた。 | Wi-Fi環境を整え、テレビ電話等を活用し家族等に意見を言ってもらえるよう努めている。出された意見・要望等は、職員会で話し合っている。家族等へのお便りに、利用者一人ひとりの様子を伝え、より意見等が出される工夫も検討している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 理事長、管理者と個人面談はあったが反映されていない様に思う。機会が無い。 | 年度末や職員会等にて、意見や要望を聞くよう努めている。ごみ置き場の変更や洗濯機の調子が悪いなど、出された意見は職員会に報告して改善がなされている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 子育て中で短時間しか働くことが出来ない中で、職員や上司に理解してもらえ、有り難い。病気で休んでいる時に、疾病手当金の手続きをしてくれた。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 希望した研修会に参加させてもらった。コロナ禍で外部研修が出来づらいが、オンライン研修等を活用して研修の機会を確保している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 今のところ無い。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 入居者と一緒に洗濯物たたみ、おしぼり干し、料理の下ごしらえ等を行っているが、出来る方が少ない。ご本人の家にお邪魔させて頂いている気持ちで関わっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 努力している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 馴染みの人や場所に触れる機会を持つのが難しい状況であるため、出来る事を考えていきたい。ご家族が来られた時に入居者の方の状況を報告している。 | 地域の公民館で開催されるランチ会(地域のサロン)に参加したり、馴染みの桜見物、スーパーへの買い物など一人ひとりの生活習慣の支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|------------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | できていない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 関わりの中で声掛けをし、表情や言葉から思い等把握出来る様努めている。部屋の環境、食事、入浴等、希望に沿って支援している。個々に合わせられるよう努めている。 | どんな時に嬉しい表情をするのか、機嫌が悪い時は何が原因なのか記録し、全職員で検討して希望・意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | カンファレンスで話し合っている。担当者会で話し合った。 | 実施評価表(日々の記録)に基づき、アセスメントを含め、担当者会で意見を交換し、モニタリング・カンファレンスを行い、その人らしく暮らせる介護計画となっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別記録には、できるだけ記入している。上手くいかなかった時など情報を共有し教え合っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | ニーズには常に対応出来る様心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 地域資源を把握できていない。傾聴ボランティアの方が来てくれる。コロナ禍の為できていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 毎月一回定期的な往診を依頼し看護師が同行している。入居者の体調を考慮し、かかりつけ医と関係を築き支援出来ている。 | 本人や家族等が希望する主治医となっている。定期的な往診があり、365日24時間の体制をとっている。歯科医の往診もある。通院は家族対応となっているが、家族等が対応できない時は、有償にて看護師が対応し、関係を密にしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 入居者の様子、変化があれば看護師に報告し指示を受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は看護師が対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 以前に比べて早期の対応が出来ている。事業所内での話し合いが不十分。 | 終末ケアに関する同意書を作成し、本人、家族等の意向を踏まえ、医師の指示により、看取りの計画書を作成している。家族等の希望により、看取り時には、居室に一緒に宿泊も可能である。職員に対しては、終末期の研修を実施し、連携を図りながら取り組むよう努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 定期的に訓練を受けていない。出来るか不安。以前にAEDの訓練を受けた。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 避難訓練で方法は身についたが、本番は職員だけでは限界があると感じた。地域の協力が必要、日頃の関わりが必要と感じた。訓練はしているが、いざとなったらできるか不安。 | 村の総合訓練準備会に参加している。段ボールベッドの作成および体験や水防避難訓練を実施し、その後の避難訓練対策計画を作るなど、村との連携を図っている。 | 更に、利用者、職員の状況、地域住民との連携を図り、災害が発生したらどう行動するかなど多くの場面を具体的に検討し、訓練されることを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 丁寧な言葉かけで対応出来るよう心掛けています。人格を尊重し誇りを傷つけないよう努力している。その人に合わせた声掛けや対応をしている。研修した事を思い出しながら会話している。 | 不適切なケア等の研修をオンラインで受講することにより、職員の気づきを促している。利用者一人ひとりの尊厳を損なわないケアができるよう、例えばトイレ時、膝に掛ける布を使用するなど、日々確認し合っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 本人の希望に沿うよう支援しているが、働きかけも難しい。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 出来る限り本人の望んでいるペースに合わせて生活できるようにしている。職員のペースになっているなど思う時がある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 美容師さんをお願いしカットに来ていただいている。汚れが気になったら着替えてもらうようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 入居者の介助をしながら同じテーブルで食事をしている。介助が必要の無い人でも同じテーブルで食事している。野菜の下処理や下膳など出来る事を支援している。 | 訪問時は、節分の日であり、利用者と一緒に恵方巻を作っていた。冬至はかぼちゃのメニューや地域料理の五平餅など、四季折々の料理を大切にしている。食材は、利用者の家族等からのお裾分けもある。職員は、食事も大切なケアの一環として支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事量は一人一人記録し、特に夏は水分量に注意している。身長、体重、活動量から必要量を出している。一日の献立がきちんとあるのでバランスは取れていると思う。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 歯磨きは出来る人は本人に任せているが夜は出来るだけ声掛けをしたり見守りをしたりして介助する。毎食後はできていない。拒否が強い時は気持ちを考え、できない時がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 | 歩行が困難な方はポータブルトイレを使用、一日の流れの中で時間を決め誘導している。パット交換のみで済ませず便器に座ることによって排便を促している。 | 排泄パターンを記録し、基本、時間を見計らって対応をしている。例えば、利用者一人ひとりに合ったパットの大きさなど、検討を行い、トイレで排泄できるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 便秘時は排便を促す食品などを提供している。様子を見て看護師による摘便、緩下剤を使用。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。 | 個々に声掛けし希望に沿っている。拒否がある時は無理に誘わないが、課題である。タイミングと言葉がけで無理なく入浴していただけるよう努力している。 | 入浴に伴うリスクも考慮し、リフト浴を活用して季節に応じた菖蒲湯や柚子湯等に入り、楽しんでいる。入浴後の化粧品も個々の好みの物を使用している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 昼食後眠そうな方は居室で休んでもらっている。自由に居室で休んだりしている。居室の温度調節やカーテンの開閉で心地よく眠れるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 誤嚥防止の為二人で確認している。しっかりできていない時もあり再度確認していきたい | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 本人に合わせてお願い出来るような仕事を無理なくして頂き話しながら一緒に行う。歌、懐メロ、体操、テレビ、ビールを飲むなど、好きな事が出来る様支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 散歩したり季節に応じ花見や紅葉ドライブにも行っている。戸外に出かける時には、付き添うよう努めている。希望を上手く引き出せておらず十分な支援とはいえない。 | お茶を持って戸外に出かけたり、ドライブ、散歩、夏の花火など、利用者本人の思いに沿って支援に努めていたが、コロナ禍の中、外出支援が困難になっている。しかし一人ひとりにどのように対応したら、外出を楽しめるか、工夫を検討している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 財布を本人に持ってもらいヤクルト等を購入している。手元に持っている入居者が少ない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 希望により電話を掛けたりしている。できる方は少ない。オンラインテレビ電話の支援もしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | お正月、ひな祭り、七夕飾り、また季節の花を飾っている。浴室は、夏、冬は温度に気を付けている。共用スペースでの音や声が混乱をまねく時がある。職員も環境の一部であることを意識していきたい。 | 玄関に入ると、季節の花等が生けられ、利用者同士の思い出の写真等が壁に飾られている。廊下から見える戸外の田園風景を楽しんでいる。風呂場やトイレは清潔に保たれている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | ホールにソファがあり自由に座って思い思いに過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居時使い慣れたものを持ってきている。 | 居室には、仏壇や家族等の写真などが持ち込まれ利用者の思いに配慮された居室となっている。また、衣類など、わかりやすく整頓されその人らしい居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | トイレ、浴室に分かりやすく看板を付けたり、必要な場所に手すりを付けている。 | | |